

単 元		年 組 番	問
六年 筆者のものの見方をとらえ自分の考えをまとめよう 「鳥獣戯画を読む」		氏 名	

筆者のものの見方をとらえるには

筆者のものの見方をどうやってとらえるのかを次の3つのポイントで考えていこう。

- ① 何を取り上げているか。
- ② 取り上げたものの、どこに目を向けて、どのような言葉で説明や解説をしているか。
- ③ どのような言葉で評価しているか。

筆者と自分のものの見方をとらえ、自分の考えを文にまとめるには

○ 自分の考えをまとめるために、次にあげることをしていきましょう。

- ・ 筆者のものの見方や感じ方と共通するところを探す。
- ・ 筆者のものの見方や感じ方とちがうところを探す。
- ・ ちがうところについて、自分はどのような見方をしていたのかを考える。
- ・ 新しく知ったことや見方が広がったと思うことをまとめる。

○ 「鳥獣戯画」に対する自分の考えを次のように文にまとめていきましょう。

- ・ どの動物を取り上げるのかを決める。
- ・ 取り上げた動物の何に着目するかを決める。
- ・ 自分ならどんな見方をするのかを考える。

友達と考えを聞き合ってみると、同じような見方やちがう見方で自分にはないものがみつかると、どんどん友達と交流しよう。



書き出しや文末の工夫、短く歯切れのよい文等、筆者の文章表現の工夫について考えてみて、自分が文章を書くときの参考にするとよいですよ。



単 元	年 組 番	問
六年 筆者のものの見方をとらえ 自分の考えをまとめよう 「鳥獣戯画を読む」	氏 名	

教科書一三六ページから一三九ページまでを読んでから、次の問題に答えましょう

1 一三七ページの絵を見た筆者が、その絵の取り上げている部分を表しているところには、次の二つの傍線部があります。それぞれ何に着目しているのか、次の①～⑤の中から適切なものを選びましょう。

- (1) 「蛙が外掛^{かえり}け、すかさず兔^{うさぎ}は足^{あし}をからめて返し^{わび}技^{わざ}」
- (2) 「蛙が兔の耳^{みみ}をがぶりとかんだ。この反則^{はんじき}技^{わざ}にたまらず兔は顔^{かほ}をそむけ、」
- ① 形 ② 大きさ ③ 色 ④ 格好 ⑤ 表情 ⑥ 気持ち

答え (1)

(2)

2 (1)、(2)について、筆者が評価している表現を一三六ページの五行目から一三七ページの七行目までのの中から見つけて、書きぬきましょう。

--	--	--

3 一三八ページ「兔を投げ飛ばした蛙の口から線が出ているのに気がついたかな。いったいこれは何だろう。」で、この正体はなんだと作者は考えていますか。

